



アンリ・カルティエ=ブレッソン「木村伊兵衛」1954年 ©Henri Cartier-Bresson/Magnum Photos



木村伊兵衛「アンリ・カルティエ=ブレッソン」1954年

木村伊兵衛とアンリ・カルティエ=ブレッソン

Ihee Kimura & Henri Cartier-Bresson: Eastern Eye & Western Eye

東洋と西洋のまなざし

2009年11月28日[土]—2010年2月7日[日]

会場——東京都写真美術館 3階展示室

開館時間——10:00～18:00(木・金は20:00まで/入館は閉館の30分前)
但し1月2日、3日は11:00～18:00開館

休館日——毎週月曜日(但し祝日は開館、翌火曜日は休館)
12月28日[月]～1月1日[金・祝]は休館

観覧料——一般700(560)円/学生600(480)円/中学生・65歳以上500(400)円
()内は20名以上の団体観覧料/第3水曜日は65歳以上無料
東京都写真美術館友の会会員、小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

主催——東京都 東京都写真美術館/朝日新聞社

協力——横浜美術館/マグナム・フォト東京支社/フォト・ギャラリー・インターナショナル



東京都写真美術館



上左 木村伊兵衛「秋田市、仁井田」一九五三年
上右 木村伊兵衛「本郷森川町」一九五三年
下左 アンリ・カルティエ=ブレッソン「マヌエラ河で、フランス」一九三八年
下右 アンリ・カルティエ=ブレッソン「ライオン・デ・ラ・ヴィクトワール、イタリア」一九五一年

木村伊兵衛とアンリ・カルティエ=ブレッソン——東洋と西洋のまなざし

Ihee Kimura & Henri Cartier-Bresson: Eastern Eye & Western Eye

木村伊兵衛(1901-1974)とアンリ・カルティエ=ブレッソン(1908-2004)は、日本とヨーロッパと活躍した場は異なりますが、ともに近代的な写真表現を切り開いた写真家として重要な存在です。このふたりは、「ライカ」というカメラを人間の眼の延長としてとらえ、揺れ動く現実の諸相を切り取り、それまでになかった新しい“写真”のあり方を証明しました。それゆえ、ふたりの作品には普遍的ともいえる共通性を見取れますが、日本とヨーロッパという写真家が生きた現実の違いは、微妙ではありますが決定的な差異をそれぞれの表現にもたらしめています。本展では、木村伊兵衛とアンリ・カルティエ=ブレッソンという偉大なふたりの写真家の個性を堪能していただくだけでなく、近代的な写真表現が絶対的、普遍的でありながら、同時にいかに個別的、相対的なものであったかを見ようとするものです。

■ 新春ギャラリートーク——2010年1月2日[土]、3日[日]16:00～

■ 担当芸員によるフロアレクチャー——第2・4金曜日16:00～

※本展覧会半券(当日押印)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

■ 本展覧会の関連イベントとして講演会が計画されています。詳細は当館ホームページをご覧ください。

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内 Tel. 03-3280-0099

<http://www.syabi.com>



[アクセス] JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分。

東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。

お車で来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。